



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年7月29日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ブルボン

コード番号 2208 URL <https://www.bourbon.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 康

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務 財務管理部長 (氏名) 山崎 幸治 TEL 0257-23-2333

四半期報告書提出予定日 2022年8月9日 配当支払開始予定日 -

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績 (2022年4月1日~2022年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	22,912	△3.1	490	△67.5	904	△43.9	576	△46.9
2022年3月期第1四半期	23,637	-	1,509	-	1,612	-	1,085	-

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 452百万円 (△50.1%) 2022年3月期第1四半期 906百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	23.98	-
2022年3月期第1四半期	45.20	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第1四半期	79,601	52,938	66.5	2,203.53
2022年3月期	83,262	52,786	63.4	2,197.20

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 52,938百万円 2022年3月期 52,786百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	-	12.50	-	12.50	25.00
2023年3月期	-	-	-	-	-
2023年3月期 (予想)	-	13.00	-	13.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想 (2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	43,000	△2.8	100	△94.4	500	△75.2	200	△85.5	8.32
通期	96,000	1.6	1,200	△70.9	1,700	△64.2	1,100	△67.4	45.79

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日 (2022年7月29日) 公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 有

新規 一社（社名）一、除外 1社（社名）北日本羽黒食品株式会社

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご参照ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期1Q	27,700,000株	2022年3月期	27,700,000株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	3,675,613株	2022年3月期	3,675,613株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期1Q	24,024,387株	2022年3月期1Q	24,024,387株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(会計方針の変更)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続いているものの、段階的な行動制限の緩和や個人消費の持ち直しの兆しにより、社会経済活動正常化への期待感が高まりました。一方で、東欧地域における情勢不安の長期化や、為替市場の急激な円安進行等に起因する物価上昇圧力が強まり、先行き不透明な状況で推移しました。

菓子・飲料・食品業界は、エネルギー価格や原材料価格の上昇が続く厳しい経営環境におかれる中、内食需要に一服感が生じたところに値上げの発表が相次ぎ、消費者の節約志向や生活防衛意識に一段と注視が必要な状況を迎えました。

このような状況下で当社グループは、食品製造企業として感染防止対策の徹底に努めながら、一貫して品質保証第一主義に徹し、安全で安心な実質価値の高い商品の安定した供給と、消費者ニーズにお応えしたサービスの提供など、顧客満足度の向上に向けた活動を推進してまいりました。具体的には、健康志向への対応や既存ブランドを活かし付加価値と競争力を高めた商品開発のほか、生活様式の多様化や購買層の変化に適応した商品やサービスの展開などを行い、求められる価値の実現に機敏かつ柔軟に取り組みました。あわせて、企画提案型の営業活動と店頭フォローを積極的に行い、お客様の笑顔と満足につながる活動を推進してまいりました。

その結果、チョコレート品目やキャンデー品目が堅調に推移したものの、ビスケット品目などに需要が落ち着いた商品群があったことなどから、売上高は前年同期を下回りました。利益面では、エネルギー・原材料価格の上昇が続く中、生産性の向上とコストの削減、経費の効率的な使用に取り組んだことに加え、一部商品において価格改定を実施し適正利益の確保に努めましたが、コスト上昇が先行し売上高の減少も重なったことから営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を下回りました。

営業品目別の概況

菓子の合計売上高は、21,904百万円（対前年同期比97.5%）となりました。

菓子では、ビスケット品目を中心として、豆菓子、キャンデー、デザート、米菓、スナック、チョコレートなどの品目を展開しています。

ビスケット品目は、当社の技術とこだわりを加えた「バリューセレクト」シリーズに、パイナップルをたっぷり挟んで焼きあげたソフトクッキー「パイナップルサンド」と、厚めに焼きあげたラングドシャクッキーを巻き上げ、ミルクチョコレートと組み合わせた「ラングロールショコラ」を発売し、品ぞろえの強化を図りました。加えて、「贅沢ルマンド」シリーズに、「贅沢ルマンド宇治抹茶ラテ」を発売したほか、「チョコあ〜んぱん」シリーズでは、ひんやりとしたクリーム「ミルクあ〜んぱんソフトクリーム風味」を発売したとともに、キャンペーンによるブランド強化を図りました。さらには、「80kcal」シリーズに「北海道ミルクのビスケット」を発売したことに加え、おいしさと糖質のバランスを考えた商品群「カーボバランス」シリーズのリニューアルを行い、健康志向ブランドの活性化を図りました。

豆菓子品目は、「味ごのみ」シリーズが順調に推移したほか、クラッカーやプレッツェルを取り入れた洋風のミックス菓子「クラブレ」や、ナッツにひと手間加えたおつまみ商品「クリスピーカシューメープルベーコン風味」を発売し品ぞろえの強化を図りました。

チョコレート品目は、「アルフォートミニチョコレート」シリーズで、期間限定商品や「アルフォートミニチョコレートプレミアム濃ラズベリー」などを展開し、品ぞろえの強化を図ったことでシリーズ全体でも順調に推移しました。また、袋商品の期間限定品として、2種類の塩が甘みを引き立てる「104g夏トリュフ塩バナラ味」を発売しご支持をいただきました。加えてチョコスナック商品群、ファミリーサイズ商品群も順調に推移しました。

菓子全体では、品ぞろえの強化やブランドの活性化に取り組んだものの、需要が落ち着いた商品群があったことから前年同期を下回りました。

飲料・食品・冷菓・その他の合計売上高は、1,007百万円（対前年同期比85.4%）となりました。

飲料品目は、ミネラルウォーター商品群が順調に推移したほか、「牛乳でおいしくまるやかなココアボトル缶280」にも好評をいただきましたが、「牛乳でおいしくつめたいココア缶190」が伸び悩み、品目全体では前年同期を下回りました。

食品品目は、粉末ココア商品の「240gミルクココア」と「冷たい牛乳で飲むココア1日分の鉄・Ca」にご支持をいただきました。また、機能性食品では、体内でエネルギーになりやすい中鎖脂肪酸油(MCT)を配合した「MCTプラスマドレーヌ」を発売しました。「セノビックバーミニソフトクッキーココア味」や「スローバー」シリーズが順調に推移した一方、保存缶商品や「プロテインバー」シリーズの需要が落ち着いたことから、品目全体では前年同期を下回りました。

冷菓品目は、モナカアイスに独自開発した凍らせても柔らかいグミを組み合わせた「グミーツイタリアングレーブ味」を発売し「お菓子アイス」の新たな品ぞろえを行いました。品目全体では既存品が伸び悩んだものの、シリーズ商品の積極的な商品展開を図ったことで前年同期を上回りました。

その他では、通信販売事業は、季節に合わせた商品展開やECチャネル限定の企画展開およびキャンペーンを実施し、リピーターの増加と販路拡大に取り組みました。

自動販売機事業は、新規開拓によるプチモールの設置台数の増加を図り、対面接触を避けた多様な商品を取り扱う食品販売ツールとしての環境整備に取り組みました。また、既設自販機の収益性の向上と効率化を図りました。

酒類販売事業は、行動制限緩和により酒類提供が再開され、飲食店ルート向け商品が復調しました。また、人流の増加により土産用受託商品の需要も回復基調で推移しました。輸出商品の需要が落ち着いたものの、限定醸造商品を展開し、引き続きナショナルブランド商品の強化にも取り組んだことから、全体では順調に推移しました。

以上の営業活動により業績の向上に努めてまいりました結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は22,912百万円（対前年同期比96.9%）、営業利益は490百万円（対前年同期比32.5%）、経常利益は904百万円（対前年同期比56.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は576百万円（対前年同期比53.1%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は35,128百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,743百万円減少となりました。これは主に、現金及び預金ならびに受取手形及び売掛金の減少と商品及び製品の増加があったことによるものです。固定資産は44,473百万円となり、前連結会計年度末に比べ82百万円増加となりました。

この結果、総資産は79,601百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,661百万円減少となりました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は19,589百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,792百万円減少となりました。これは主に、支払手形及び買掛金や未払費用の減少および法人税等の支払ならびに賞与の支給があったことによるものです。固定負債は7,073百万円となり、前連結会計年度末に比べ20百万円減少となりました。

この結果、負債合計は26,663百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,813百万円減少となりました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は52,938百万円となり、前連結会計年度末に比べ152百万円増加となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上および剰余金の配当があったことによるものです。

この結果、自己資本比率は66.5%（前連結会計年度末63.4%）となりました。

・連結キャッシュ・フローの状況に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は13,783百万円となり、前連結会計年度末（16,793百万円）に比べ3,009百万円減少となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は1,607百万円（前年同期1,837百万円の収入）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益910百万円および仕入債務の減少額1,105百万円ならびに未払費用の減少額1,414百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は1,018百万円（前年同期1,291百万円の支出、対前年同期比78.9%）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出915百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は423百万円（前年同期418百万円の支出、対前年同期比101.1%）となりました。これは主に、リース債務の返済による支出70百万円および配当金の支払額300百万円があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年4月28日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日付で「業績予想の修正に関するお知らせ」を公表しておりますのでご参照下さい。

(なお、当業績予想は、新型コロナウイルス感染症による経済活動停滞の影響及び原材料やエネルギーコストの上昇を織り込み算出しています)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,790	13,783
受取手形及び売掛金	13,389	10,466
有価証券	2	—
商品及び製品	4,077	5,523
仕掛品	576	624
原材料及び貯蔵品	3,479	3,859
その他	560	874
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	38,871	35,128
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	15,898	16,602
機械装置及び運搬具（純額）	11,059	10,668
その他（純額）	10,146	10,148
有形固定資産合計	37,104	37,419
無形固定資産		
のれん	862	834
その他	391	445
無形固定資産合計	1,254	1,279
投資その他の資産		
その他	6,032	5,775
投資その他の資産合計	6,032	5,775
固定資産合計	44,390	44,473
資産合計	83,262	79,601

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,477	10,380
短期借入金	60	10
1年内償還予定の社債	100	100
未払法人税等	840	88
賞与引当金	1,308	560
その他	9,594	8,449
流動負債合計	23,382	19,589
固定負債		
長期借入金	78	75
役員退職慰労引当金	264	269
退職給付に係る負債	5,650	5,660
負ののれん	12	12
その他	1,088	1,055
固定負債合計	7,094	7,073
負債合計	30,476	26,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,036	1,036
資本剰余金	6,790	6,790
利益剰余金	46,231	46,507
自己株式	△941	△941
株主資本合計	53,116	53,392
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	324	335
為替換算調整勘定	△630	△772
退職給付に係る調整累計額	△24	△16
その他の包括利益累計額合計	△330	△453
純資産合計	52,786	52,938
負債純資産合計	83,262	79,601

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	23,637	22,912
売上原価	17,217	17,382
売上総利益	6,420	5,529
販売費及び一般管理費	4,910	5,039
営業利益	1,509	490
営業外収益		
受取利息	1	1
受取配当金	37	45
受取賃貸料	3	3
為替差益	29	346
負ののれん償却額	0	0
その他	38	22
営業外収益合計	111	420
営業外費用		
支払利息	0	0
減価償却費	5	4
賃貸収入原価	2	2
その他	0	0
営業外費用合計	8	7
経常利益	1,612	904
特別利益		
投資有価証券売却益	0	34
特別利益合計	0	34
特別損失		
固定資産処分損	0	3
減損損失	1	2
投資有価証券評価損	4	22
特別損失合計	6	28
税金等調整前四半期純利益	1,606	910
法人税、住民税及び事業税	183	43
法人税等調整額	336	290
法人税等合計	520	334
四半期純利益	1,085	576
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,085	576

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	1,085	576
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△54	10
為替換算調整勘定	△132	△142
退職給付に係る調整額	7	7
その他の包括利益合計	△179	△123
四半期包括利益	906	452
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	906	452
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,606	910
減価償却費	1,041	1,058
のれん償却額	28	28
受取利息及び受取配当金	△38	△47
負ののれん償却額	△0	△0
支払利息	0	0
為替差損益 (△は益)	△5	△301
投資有価証券売却損益 (△は益)	△0	△34
固定資産処分損益 (△は益)	0	3
減損損失	1	2
投資有価証券評価損益 (△は益)	4	22
売上債権の増減額 (△は増加)	2,674	2,925
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△376	△1,860
仕入債務の増減額 (△は減少)	△258	△1,105
未払費用の増減額 (△は減少)	△828	△1,414
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	0	5
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	31	20
その他	△1,091	△1,133
小計	2,789	△919
利息及び配当金の受取額	38	47
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△991	△734
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,837	△1,607
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,262	△915
投資有価証券の取得による支出	△1	△54
投資有価証券の売却による収入	0	36
その他	△27	△85
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,291	△1,018
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△52	△52
リース債務の返済による支出	△65	△70
配当金の支払額	△300	△300
財務活動によるキャッシュ・フロー	△418	△423
現金及び現金同等物に係る換算差額	33	40
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	160	△3,009
現金及び現金同等物の期首残高	14,778	16,793
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,938	13,783

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

2022年4月1日付で、当社の特定子会社であった北日本羽黒食品株式会社は、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。

これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。